

和菓子の伝統と食文化

～食文化の継承と課題～

米重和佳

近年、日本では「和菓子離れ」という言葉が存在する。和菓子に対する需要や関心の低下から出来たと予測される。洋菓子の普及や生活様式の変化等により和菓子への関心が低下し、喫食頻度が減少したことが推測できる。本論文では、和菓子離れの原因や衰退を防ぐために何が必要であるかを明確にする。日本食における和菓子の役割や需要、存在意義を分析し、和菓子の将来性を見据え和菓子の継承に繋げることを目的とする。

『広辞苑』によると菓子とは「食事のほかに食べる嗜好品」とされている。嗜好品という記述がされていることから、菓子は食生活の基盤ではなく頑として味わいや見た目を楽しみ生活の質を上げる食べ物であることが示唆される。和菓子は登録無形文化財に登録されていて、非常に多くの種類や他文化との繋がりがあるため気温や自然、伝統行事などから季節の移り変わりが明瞭な日本において重宝され、大きな存在意義があるだろう。

日本人の食のスタイルは時代により変化を遂げていて、現代の日本は食という文化が現代の日本人の生活における大部分を占め、健康志向が上昇していることで食に求めるものが腹を満たすことだけで無くなっている。近年の日本において、添加物などが使用されない和菓子は需要に合っていると考えられる。日本で1世帯当たりの和菓子の年間支出量は減少傾向にあるが、海外への輸出量がチューイングガムやビスケット類と比較すると上回っていることや日本の老舗和菓子屋が海外に多くの店舗を展開していることから、海外からの和菓子に対する需要は一定数あると見受けられる。

和菓子の継承に向け、和菓子屋や農林水産省等が取り組みを行っている。現代人に向けた「和菓子と洋菓子の融合」や「異業種とのコラボ」、子どもの和食に対する関心を得る「全国子ども和食王決定戦」等がある。様々な取り組みが施される中、和菓子業界には「伝統文化や伝統行事の衰退」「人手不足」「和菓子の喫食頻度の低下」等の大きな課題がある。

和菓子は日本の伝統に非常に深い関わりがあり、添加物不使用などの点から健康志向の現代に合っていると考えられる。現在は人々の和菓子に対する関心や知識が十分に無い状態であるため、工夫により現代人に合わせた和菓子などを広く認知することで和菓子継承に繋がるだろう。更に、なりたい職業として人気を誇るパティシエに対し和菓子職人が不人気な理由は和菓子の存在を身近に感じていないことだろう。学校給食やイベント等で和菓子を取り入れ、幼い内から和菓子に触れることで和菓子を身近に感じる事が可能である。

課題こそ多い和菓子業界であるが、近年に無形文化遺産に登録、海外への浸透も進み、将来性は大きいと見込まれる。今後の和菓子文化の更なる発展と生活様式や社会に伴う変容にも注目すべきだ。

フォントサイズ：タイトルのみ 18pt、その他 10.5～11pt

和文フォント：MS 明朝

欧文フォント：Times New Roman